

俗に膝ともだんがふといへり、東明寺百首に、

何事も心一つにはからふなだんがふしてぞこうくわいもなき

〔貞丈雜記禮法〕一古は貴人の御前に伺候するには左のひざを立、右のひざをふせて座しける也、宗五一冊拔書に云、人の相伴の事、貴人の前にては、ひざを左の方を立てあるべし、すはり候物の時は、ひざなほしくふべし云々、左のひざ立るは、たゞ座する時、貴人の前にては如此する也、酌をとる時は、右のひざを立る也、條々聞書酌并記等にあり、今の世にては、かたひざ立るを、無禮の様に心得る也、古はかたひざ立るを禮とす、

〔古事記下宗〕初天皇逢難逃時求奪其御糧、猪甘老人是得求、喚上而斬於飛鳥河之河原、皆斷其族之膝筋。

〔古事記傳 四十三〕膝筋は、膝の裏俗に云ひの筋なるべし、和名抄に、膝比佐、また筋須知とあり、書紀神功卷に、拔新羅王臏アズカ勅云々、波和名抄に太今按、臏與膝名異實同とあり、これは今云膝頭なり、あるは筋には非れども、似たる事なり、

膝 臏

〔新撰字鏡骨〕臏蒲忍反、膝之骨也、臏同、比佐加美乃阿波太、

〔倭名類聚抄手足〕膝臏宿耀經云、膝臏宜師說比佐乃加波良今案、臏野王按、臏蒲忍反、上聲之重、字亦波太、今案韻與、膝骨也、膝臏名異實同、

〔箋注倭名類聚抄手足〕原書秘密雜要品、今本云、若觸膝臏者屬奎宿、此所引卽是、而珂從肉作臏、蓋俗臏字、古抄卷本作膝珂、與源君所見同、興福安礙新撰宿曜經亦作膝珂、按廣韻、珂馬腦、臏膝骨、二字音同義異、唐韻蓋與廣韻同、故云宜作臏也、然古無臏字、故經借用珂字、非誤也、源君云宜作臏、經今本作臏者、皆不通假借之理、改以俗字也、苦何反、廣韻同、按比佐乃加波良、與臏訓加之良乃加波良同、今俗呼比佐乃佐良、又比佐加之良、略中廣韻臏臏上同、醫心方臏訓比佐、又訓安波太古、又膝